
The Japan Foundation Asia Center & IAMAS Joint Workshop

Summer Camp “Hack the World”

Hack the World with Creativity Utilizing Democratized Technologies

国際交流基金アジアセンターと情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] では、“テクノロジーと創造性”をテーマに、国内外から広く参加者を集い、特別カリキュラムによる1週間の集中ワークショップ「Hack the World」を開催します。

90年代のパーソナルコンピュータの普及に続き、2000年代以降の情報化導入は、インターネットやSNS等を利用した集合的創造性（創発／emergence）や、テクノロジーの汎用化による工業の民主化（Personal Fabrication）をもたらし、個人に依拠しつつも、社会に開かれた創造活動を可能にしています。たとえば、MakerムーブメントやFabLabをはじめとする市民工房は、多様な人々によるものづくりへの参画を促すとともに世界的なネットワークを形成しつつあります。また、大学や企業の研究開発やサービス開発においても、新たな創造性や価値を導くために、様々な組織や専門家が協働・連携するオープンイノベーションの手法が重視されています。こうした動向からもわかるように、テクノロジーを使った手段やインフラが進展・整備されるほどに、アートやデザインが有する創造性やコミュニケーション、個人のインスピレーションの重要性が改めて問われているとも言えるでしょう。さらに、近年には、こうした“テクノロジーと創造性”を、ものづくりの手法だけでなく、都市環境の検証や社会課題の解決、市民参画の方法とする活動や議論が世界各地で生まれています。地域やコミュニティが抱える事情と深く結びついたこれらの活動を、グローバルにそして草の根的に進展するデジタルテクノロジーと、そこにある人々の創造性に着目して参照すれば、その土地固有の歴史や文化、社会状況、ひいては今日的な共通課題も見えてくるかもしれません。

本ワークショップは、世界各地で様々な試みがなされている“テクノロジーと創造性”をテーマに、インタラクションデザインやメディアプロダクト、メディアアート、ソーシャルデザインなどを専門とする講師のもと、様々な国・地域から集う参加者が、社会やコミュニティ、地域をデザインするための手法を実践的に学ぶことを目的としています。デジタルファブリケーションやInternet of Thingsなどの基礎技術を学ぶほか、実地研修やグループワークを通して、作る・伝える・考えるという3つの連続したプロセスによる“創造性”を育む方法を習得します。さらに、技術習得や製作だけでなく、体験を通して方法論を学ぶことで、本ワークショップで培ったノウハウが、参加者各自の活動や、個人が属するコミュニティへと有機的に還元されていくことを目指します。1週間におよぶ集中的なカリキュラムを通じて、参加者による幅広い交流・対話・出会いを促し、異なる地域やコミュニティへの相互理解や問題意識の共有、デジタルクリエイションを担う次世代のネットワーク形成の機会を提供します。

1. 開催概要

期間：2016年8月10日（水）～8月16日（火）[7日間]

会場：情報科学芸術大学院大学（〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1-7）

<http://www.iamas.ac.jp/>

参加料：無料

主催：国際交流基金アジアセンター 共催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

※本ワークショップは、国際交流基金アジアセンターの主催事業「ref:now initiative—toward a new media culture in asia」の一環として実施されます。

2. 募集人数

募集人数：20名

※上記募集人数のうち、アジア地域における専門家の育成のため「アジアセンター招へい枠」を設定しています（p.5 申請要領 3.）。

<対象者例>

- ・デジタルファブリケーション、ニューメディアを活用した社会活動を実践しているクリエイター
- ・新しいメディアやテクノロジーを導入した美術作品を制作（または計画）しているアーティスト
- ・Makerスペースを立ち上げている（または立ち上げようとしている）エンジニアやディレクター
- ・オープンソースのソフトウェアやハードウェアを活用して社会的な活動を実践しているエンジニア
- ・技術習得のみならず創造性を育むための教育プログラムを開発したいと考えている教育関係者

3. プログラム概要

本ワークショップでは、“テクノロジーと創造性”をテーマに、社会やコミュニティ、地域をデザインするための手法を実践的に学び、グループワークによるプロトタイプ制作を試みます。様々な国・地域のクリエイターやアーティスト、エンジニア、ディレクター、プログラマーや教育関係者等の異なる専門性や技術を有する参加者との対話を通じ、固有の歴史や文化、社会への問題意識の共有も目指します。

<柔らかい素材をプリントできる3Dプリンタをはじめとした最新設備を用いた実習>

- ・デジタルファブリケーションや Internet of Things の基礎技術の習得。

<実地研修>

- ・会場近隣に位置する限界集落（過疎化・高齢化の進展により経済的・社会的な共同生活の維持が難しい地域）に出かけ、日本における高齢化現象と、現地で実践されている活動を見学。

<グループワーク>

- ・様々な国・地域からの参加者とともに、それぞれのコミュニティ・地域が抱える課題を共有。

<プロトタイピング>

- ・上記をもとに、参加者それぞれのコミュニティ・地域の課題解決に向けた“テクノロジーと創造性”による手法をプロトタイプする。

4. 講師

小林 茂 (IAMAS 産業文化研究センター 教授)

1993年より電子楽器メーカーに勤務した後、2004年よりIAMAS。主な活動にプロトタイピングのためのツールキット「Gainer」「Funnel」「Arduino Fio」の開発。著書に「Prototyping Lab」(オライリー・ジャパン)、「+GAINER」(九天社)など。2008年にIPA(情報処理推進機構)よりスーパークリエイターに認定。オープンソースハードウェアとデジタルファブリケーションを活用し、多様なスキルや視点、経験を持つ人々が共にイノベーションを創出するための方法論や、その過程で生まれる知的財産を扱うのに適切なルールを探求。

金山 智子 (IAMAS 産業文化研究センター長・教授)

岩手県大船渡市生まれ。地域コミュニティとコミュニケーションや、市民のエンパワーメントとメディアが主な研究テーマ。最近では、IAMASのデザインやアート、ものづくりを地域社会に実装させていくデザインと、そこから新しいニーズを創造することに取り組んでいる。主な著書は「小さなラジオ局とコミュニティの再生〜311から962日の記録」(大隅書店)、「NPOのメディア戦略」(学文社)、「ネット時代の社会関係資本形成と市民意識」(慶應義塾大学出版)など。

ジェームズ ギブソン (IAMAS 准教授)

2005年に来日。以前は、live|workでサービスデザイナー、ソニーデザインセンターヨーロッパ及び東京でヒューマンインターフェイス&リサーチデザイナーとして勤務。社会的、環境的に持続可能なデザインの課題に挑む方法を探りながら、メディアに囲まれた私たちの生活における、デザイン、クラフト、アートの関係と、それらの役割について研究中。

クワクポリョウタ (IAMAS 准教授)

1998年に明和電機との共作『ビットマン』を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。以来「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション『10番目の感傷(点・線・面)』以降は、光と影によって観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。その他の代表作に『ビデオバルブ』『PLX』や『ニコダマ』などがある。

堀尾 寛太

アーティスト、エンジニア。自律的に各種物理現象を発生させる仕組み、光と音や振動が相互作用する装置などを作り、パフォーマンスやインスタレーション作品を国内外で発表。また、展示やイベントのための電子デバイス開発も手掛け、インターフェイスと振動を統合した電子楽器のプロジェクトも開始している。

※その他、専門家による講師を予定

5. IAMAS について

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、2001 年に開学した大学院大学(修士課程、メディア表現研究科一専攻)です。充実した講師陣による少数定員の大学院大学で、英文名称 Institute of Advanced Media Arts and Sciences から IAMAS (イアマス) と呼ばれています。

芸術と科学の融合を建学の理念に掲げる IAMAS は、最新の科学技術や文化を吸収しながら、先端的な芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会に提案し、それらの研究と実践によって高度な「表現者」の育成を目指しています。



IAMAS の研究教育の特色は、プロジェクトを主軸とした社会的実践、多分野の教員によるチームティーチング、専門的かつ総合的な知識と技術を習得する充実したカリキュラムの3つです。メディアアートやデザイン、エンジニアリング、メディアコミュニケーションなど、多様な専門分野を持つ 19 名の教員が、個人研究やプロジェクトを通じて、領域を横断しながら同じく多分野から学生とともに活動しています。



学内の施設としては、3D プリンタやレーザー加工機、CNC などのデジタル工作機械や、3D モデリング機器を備え、見たり、触れたり、感じたりできるプロトタイプをつくりながら、アイデアを発展させる拠点「イノベーション工房」をはじめ、木工、金工、デジタルプリントの工房、ビジュアルとサウンドのスタジオ、ギャラリースペースなどを備えています。



申請要領 Summer Camp “Hack the World”

1. 応募要件

- ・会期中のすべてのカリキュラムに参加可能であること。
- ・デジタルファブリケーション、ニューメディアを用いた表現に関し、研究や創作活動、ディレクション等の実績を有すること。
- ・協働制作を行うための日常会話程度の英語力を有していること。

<対象者例>

- ・デジタルファブリケーション、ニューメディアを活用した社会活動を実践しているクリエイター
- ・新しいメディアやテクノロジーを導入した美術作品を制作（または計画）しているアーティスト
- ・Maker スペースを立ち上げている（または立ち上げようとしている）エンジニアやディレクター
- ・オープンソースのソフトウェアやハードウェアを活用して社会的な活動を実践しているエンジニア
- ・技術習得のみならず創造性を育むための教育プログラムを開発したいと考えている教育関係者

2. 応募手続

申請書に記入のうえ、活動経歴書（CV）やポートフォリオとともに
summer-camp-apply@ml.iamas.ac.jp まで E-mail にて送付ください。

申請締切は 2016 年 6 月 27 日（月）です。

<提出書類>

- ①申請書（様式あり）
- ②活動経歴書（CV・様式自由）
- ③ポートフォリオ（様式自由、映像資料の場合はアップロードの上リンク先を明記）

3. 開催期間中の宿泊等について

本ワークショップの参加者には宿泊や食事等を下記のとおり提供いたします。

- ・期間中の一部の食事（昼食・夕食）
- ・希望者は、会場併設の専用施設の宿泊（1泊 700 円～1,700 円）をご利用いただけます。

※「アジアセンター招へい枠」の支給内容

国際交流基金アジアセンターでは、アジア地域における新たなネットワークの形成と持続的な交流基盤の促進を目的とし、アジア諸国における文化の担い手となる専門家の育成を支援しています。今回のワークショップでは、「アジアセンター招へい枠」として 10 名を対象とし、主催者より下記を支給いたします。

<対象>

- ・ASEAN 諸国の国籍／市民権／永住権の保持者

- ・ デジタルファブリケーション、ニューメディアを用いた表現に関し、研究や創作活動、ディレクション等に関して十分な実績を有し、今後の活動目標や活動計画があること。

＜支給内容＞

- ・ 居住国の主要都市から中部国際空港までの往復エコノミークラス航空券
- ・ 中部国際空港から会場までの国内交通費
- ・ 海外旅行傷害保険
- ・ 期間中の宿泊（8月9日（火）～8月17日（水））
- ・ 期間中の食事（昼食・夕食）

※宿泊施設に関しては、主催者が指定する会場併設の専用施設に限ります。なお、渡航手続きや宿泊等に関する手続きは、選考結果通達の後、参加者に連絡します。

4. 選考基準

選考に際しては、本ワークショップの習得に十分な実績や、今後の活動計画を有しているかが重要な判断基準となります。申請内容に応じて、以下のような要素を総合的に判断して採否を決定します。

- ・ 関連分野における研究・実務経験
- ・ 過去の活動実績、作家活動歴
- ・ 論文や著作などの公刊された業績

5. 選考結果の通知

選考の結果は、2016年7月8日（金）までに申請書記載の E-mail 宛にご連絡いたします。

6 お問い合わせ先

Summer Camp “Hack the World” office E-mail: summer-camp-apply@ml.iamas.ac.jp

7. 個人情報の取り扱い

- (1) 国際交流基金及びIAMASは、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）または岐阜県個人情報保護条例（平成10年7月1日条例第21号）を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。国際交流基金及びIAMASの個人情報保護への取組については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpf.go.jp/j/privacy/>

http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/johokokai/kojinjoho-hogo/11124/index_17603.html

- (2) 採択された場合、申請書及び添付書類に記入された情報は、選考、事業実施、事後評価等の手続のほか、次のような目的で利用します。

- ア. 採用者の氏名、性別、職業・肩書、所属先等の情報は、国際交流基金及びIAMASの事業実績、年報、ウェブサイト等の公表資料への掲載、統計資料作成に利用されます。また、国際交流基金事業及びIAMASの広報のため、報道機関に提供することがあります。

イ. 採用者の氏名、国籍、住所、性別、生年、活動テーマ、所属機関、職業・肩書、受入機関、滞在期間等に関する情報を以下の機関等に提供します。

- ①日本国外務省及び関連各公館等
- ②保険会社及びその代理店等（海外旅行傷害保険加入等のため）